

日本原子力学会 第 140 回倫理委員会
議事録

1. 日 時：2023 年 10 月 5 日（木）13:30～16:00
2. 場 所：Web 会議
3. 出席者：大場委員長、手柴副委員長、神谷幹事、伊藤(公)委員、伊藤(聡)委員、塩満委員、
出町委員、中野委員、中村委員、福家委員、藤田委員（委員 13 名中 11 名出席）
後藤特別委員、小林特別委員
オブザーバー 沖田氏
4. 資 料：
 - 倫 140-1-1 前回議事録（案）
 - 倫 140-1-2 委員の承認等について
 - 倫 140-2-1 倫理委員会活動計画
 - 倫 140-2-2 倫理委員会役割分担表
 - 倫 140-3 2023 年秋の大会企画セッションの開催結果
 - 倫 140-4 2024 年春の年会企画セッションに係る企画・準備について
 - 倫 140-5-1 次回倫理規程改定に向けた検討について
 - 倫 140-5-2 倫理規程改定検討シート
 - 倫 140-6 （欠番）
 - 倫 140-7-1 ダイバーシティ&インクルージョン推進のための目標シート

5. 議事概要：

(1) 前回議事録について

神谷幹事から資料 140-1-1 に基づき説明があり、内容について特に異議はなく、了承された。
なお、一部誤記については幹事が修正する。

(2) 委員候補の承認等について

大場委員長から、資料 140-1-2 に基づき、日本原燃 大久保哲朗氏と原子力機構 藤田博喜氏の
委員就任が 9 月 7 日理事会で承認されたことについて報告があった。

また、三菱重工業 沖田康典氏から倫理委員会委員への立候補があった旨の説明があり、立候
補届出に基づき、専門分野、立候補理由について確認をした。その後、決を採り、出席者全員が
了承し、沖田氏の委員就任について了承された。今後、理事会での承認に向けて、幹事が諸手続
を進めていくこととした。

なお、上記に関連して、委員就任を了承する際の規準の有無、過去の経緯等について意見交換
を行った。

(3) 活動計画および役割分担について

手柴副委員長から資料 140-2-1、140-2-2 に基づき説明があった。主な議論等は以下のとおり。

- ・技術倫理協議会の予実績：117回 8/28、118回 9/20、119回 10/16
- ・倫理研究会の開催計画については、別途議論していく。
- ・年会・大会での企画セッションについては、学会理事会で2025年春以降、春の年会はオンライン開催、秋の大会は対面開催との運営方針が示されており、これを踏まえた柔軟な講師選定等を検討できるのではないかと。

(4) 2023年秋の大会企画セッションの結果について

伊藤(公)委員から資料140-3に基づき説明があった。主な議論等は以下のとおり。

- ・他の企画セッションとの兼ね合いや当日の台風接近の影響により参加者は少なかったが、有意義な企画となった。
- ・講師である神崎先生の説明は、大変聞きやすく、分かりやすいものだった。
- ・結果の概要については、委員会HPに掲載する（幹事対応）。

(5) 2024年春の年会企画セッションについて

伊藤委員から資料140-4に基づき説明があり、引き続き検討を進めていくこととした。主な議論は以下のとおり。

- ・資料に記載されている文献は20年以上前のものであり、その後の原子力に関わる不祥事や研究の進展を踏まえて、講師候補者がどのように考えているか、注意が必要ではないか。
- ・テーマに「安全文化」と「安全管理」が並列的に記載されているが、これらについては、事業者の最近の安全文化育成活動においては、階層構造の中で捉えられるものであり、違和感があり、何を訴求しようとしているのかが分かり難い。
- ・事業者にも講演を依頼する計画にしているが、倫理委員会としてどのような問題意識をもって、何について講演を求めるのか、明確にしておく必要がある。
- ・研究機関には研究者と管理者がいて、研究者は安全管理について自分事と考えていなくて、一方、事業者にはそのような職種の差異はないので、そのような研究機関と事業者の違いが安全文化にどう影響しているのか等を訴求できたらよいのではないかと。
- ・研究機関では研究者は施設のユーザーで管理業務にはついていないこと等については、委員会からのプレゼンに加えたいと思う。
- ・今回の講師候補者の過去の研究では、「現場経験の少ない若手技能者の安全管理においては、職場での目標共有が重要である」と指摘されている。2024年問題を控え、今後は現場経験の少ない技能者の現場投入が予想されるが、労働安全、プラント安全の観点から、職場で留意すべき組織的な取り組みについて講演いただくのがよいのではないかと。

(6) 次回倫理規程改定に向けた検討について

神谷幹事から、資料140-5-1、140-5-2に基づき説明があり、また、前回資料から倫理規程改定検討シートを更新した福家委員から説明があった。

主な議論は以下のとおりで、当面は、今回と同様の作業を継続することとし、各委員で検討個所の抽出を進めることとした（今回提出シートのブラッシュアップも含む）。

- ・各憲章（関連する行動の手引を含む）を順番に委員会で議論し、全体を網羅していく進め方

もあるのではないか。

- ・向こう2回の委員会では現在の作業により幅広い抽出を進め、その次のステップで半年程度憲章ごとの検討、あるいは論点で横串を通した検討により規程全体を網羅し、その後に全体を更にブラッシュアップしていくという段取りを考えている。このような進め方の案は、資料140-5-1に反映したい。
- ・一方、進め方をリジットに決め過ぎて自由な問題提起を阻害したり、議論を拘束してしまうことは避けたいと考えている。
- ・新たに委員に就任された方には、新鮮な眼で自由に提起していただければと思う。ただし、倫理規程は分量が多く、またHPに掲載の過去の改定経緯も量が多くすべてを把握することは負担が大きいため、気がついた点だけでよい。
- ・特別委員やその他の委員も積極的に抽出していただきたい。

(7) 倫理委員会の活動内容について

前々回委員会で委員長から提起のあった倫理委員会として取り組むべき活動（倫理研究会のテーマを含む）、新たな施策（前回委員会では出町委員からアイデア紹介あり）等に関連しては、委員長から委員に対してアンケート調査で依頼するので、各委員は2週間程度で対応することとした。その結果も踏まえて、次回委員会で議論することとした。

(8) その他

- ・神谷幹事から、前回委員会で説明のあった会員からの申し出案件への対応に関しては、申し出をされた会員と関連箇所への対応を実施して、現段階でフォローすべき事項は発生していないことの紹介があった。
- ・神谷幹事から、資料140-7-1に基づき、本会ダイバーシティ推進委員会に提出した「ダイバーシティ&インクルージョン推進のための目標シート」について紹介があった。

6. 次回：12月頃に対面とWebのハイブリッドで開催することとし、日程については別途調整することとした。

以上